

出題傾向

大問数6, 設問数45を60分で解答することになる。すべて基礎学力を見ようとする問題であり, 高校の教科書「英語Ⅰ」と「英語Ⅱ」で十分対応できるものばかりである。

問題の構成は, ①会話文問題, ②発音問題, ③長文空所補充問題, ④文法・語法問題, ⑤整序作文問題, ⑥長文総合問題, となっている。

レベルは90パーセント以上が基本レベルの問題で, 長文の一部に標準レベルの設問が少し含まれる程度だ。英語が比較的得意な人はかなりの高得点が可能であろう。逆に, これまで英語の勉強が十分でなかった人は, しっかりと勉強をしておかないと差が開くことにもなるので注意が必要である。

学習対策

高1, 高2での学習内容に出題が集中すると言ってよいだろう。今後も教科書を中心とした日々の学習を大切にしてもらいたい。

それでは英語学習にあたっての具体的なアドバイスをおこう。

◆まず「英語Ⅰ」と「英語Ⅱ」の復習をする

これまで使った教科書「英語Ⅰ」と「英語Ⅱ」をまず復習することから始めよう。

最初にLESSON全体の英文の意味が取れるかどうか確認する。その際, 「単語ノート」を作って, 忘れていた単語やあやふやな単語は辞書で確認しておこう。必ず発音記号にも目を通し, 発音もチェックすること。また, 単語の意味だけでなく, 辞書の例文にも目を通す習慣をつけよう。例文の中で初めて, その単語の持つ本当の意味やニュアンスなどがわかるものだからだ。ただし「単語ノート」に書くのは発音記号と意味だけでよい。何もかも書こうとすると, 非常に時間がかかる上に, ノート作りそのものが目的になってしまうおそれもある。ノートには重要なことだけ書く。これが鉄則だ。細かいことは, 忘れたらもう一度辞書を引く。これで十分である。

こうして, LESSON全体の意味と単語のチェックが終わったら, 最後に本文全体を音読してみよう。最低でも5回~10回くらい, できれば20回くらいやるとよい。音読することで, 発音問題の対策になることは言うまでもなく, 英語の構文のリズムというものも身につくからだ。これは, 特に将来英語を使いたい, 話せるようになりたいという人にとってはとても有効な勉強法だ。

◆次に「WRITING」の教科書の, 特にPART 1を復習する

WRITINGの教科書は, 重要な構文や表現がふんだんに詰まっており, 文法・語法問題や整序作文問題を解くための基礎となる。まず何回も音読し, 構文全体を覚えてしまうくらいに練習しておこう。次に, 日本文を見て英文が出てくるまで練習しよう。

最後に, 実際にノートに英文を書く練習までしておけば万全だ。

◆さらに, 文法・語法問題集を征服する

あまり題数が多いものでなくてよいので, 1冊「文法・語法問題集」を征服しておこう。この「文法・語法問題集」は, 2回, 3回と繰り返すことによって, 理解が深まり, また定着するもの。だから1回目をなるべく早く, 2か月程度で終わらせるようにしよう。

文法・語法問題は出題されるものがある程度決まっている。問題自体を覚えてしまうほどに繰り返し練習するのが勉強のコツである。

◆最後に, 長文に挑戦する

当然だが, 長文だけは, 試験場でこれまで読んだことのない英文を読まなければならないことになる。それゆえ, 教科書以外の新たな英文であっても, 一度読んだだけでおおよその意味をつかめるような練習が必要となる。本学で出題される程度の長さやレベルの「長文問題集」を用意して練習しよう。適当なものがない場合にはセンター試験の過去問でもよい。1日1題, 2か月継続すれば, 必ず力がつく。英語は1回にまとめて勉強するよりも, 継続して毎日やる方が効果的な科目だ。スポーツに似て「訓練」の科目だからである。その意味では, やれば誰でも必ずできるようになる科目でもある。ぜひ頑張ってもらいたい。